

# ためしてナットク! アバンシィプリロード1P

日時 平成29年1月**28**日(土) **12:30**~13:30

会場 第**7**会場(東京国際フォーラム ホール棟 5F ホールD5)

座長



東京医科大学 理事長

**白井 正彦** 先生

演者 1



藤田眼科 院長

**藤田 善史** 先生

演者 2



岩手医科大学 眼科学講座 教授

**黒坂 大次郎** 先生

演  
題  
1

**アバンシィプリロード1Pの使用経験と  
各社インジェクターとの比較**

演  
題  
2

**プリロードもストレスフリーの時代に**

参加方法 - 本会ランチョンセミナーは整理券制となります。

■配布日時: 1月28日(土)7:30~11:30(※無くなり次第、終了) ■配布場所: 東京国際フォーラム 地下2階 ホールE前 総合受付付近  
※飲食数には限りがございますので、予めご了承ください。※会場には整理券をお持ちの方から優先的にご入場いただけます。※整理券は、セミナー開始5分後に無効となります。

# 第40回日本眼科手術学会学術総会 ランチョンセミナー13

## 座長のことば

東京医科大学 理事長 臼井 正彦

2016年9月に興和創薬からアバンシィ プリロード1P (YP2.2) が新発売となった。セッティングが容易なプリロードシステムで、プッシュ型を採用している。独自のスクープヘッドがレンズをすくい上げて押し進める構造となっており、術者の手にかかる抵抗は小さく、レンズは滑らかに眼内へ挿入される。

アバンシィといえば3Pという先生もいらっしゃるだろう。3Pの挿入システムである「アバンシィプリセット」も押し出し抵抗が軽く操作性に優れる。光学部はグリスニングや後囊混濁の発生が極めて低く、レンズ素材の良さには定評がある。これらの優れた特性はYP2.2にも引き継がれている。

現在は多くのIOLやその眼内挿入システムが市場に存在する。製品のどのような点を評価するかは術者によって異なるが、昨今は改良が進み、いずれの製品も甲乙つけ難いというのも先生方の正直なところではないだろうか。そのような中で新発売となったYP2.2はどのような位置づけとなるのか？

本セミナーでは藤田眼科 藤田善史先生と岩手医科大学 黒坂大次郎先生から、それぞれYP2.2の使用経験と製品評価をお話していただく。臨床経験豊かなお二人の先生とともに、新製品の利点とこれからの課題について検証する。

## アバンシィ プリロード1Pの使用経験と各社インジェクターとの比較

藤田眼科 院長 藤田 善史

アバンシィ プリロード1P (YP2.2) は、アバンシィシリーズとしては初めてのシングルピース形状の眼内レンズ (IOL) である。その特徴は、インジェクターが軽くスムーズな押し出し感で挿入できること、レンズがやわらかく眼内での開きが速いことである。インジェクターにも細かな工夫が凝らされ、レンズを正確にインザバッグに挿入できるよう改良が加えられている。

本講演では、当院におけるYP2.2の使用経験について手術動画を中心に紹介する。さらに他社インジェクターとの比較検討、術後屈折誤差などの臨床成績を提示する予定である。YP2.2の長所と短所を整理し、日常診療における使用のポイントや今後の課題について述べたい。

## プリロードもストレスフリーの時代に

岩手医科大学 眼科学講座 教授 黒坂 大次郎

術者は、眼内レンズに何を求めるだろうか？術後の視力の立ち上がり、術後の屈折値の安定性だろうか。手術操作にストレスを感じるのであれば、IOLのセッティングから、挿入時、支持部の開き具合だろう。角膜切開に耐えない術者であれば、緑内障での角膜切開では、ストレスを感じるかも知れない。挿入時の創口への負荷は、術後乱視、眼内炎にも関係するに違いない。長期間患者の経過観察される先生は、グリスニングなど長期の安定性もきっと気がかりだと思う。もちろん製品そのものの安全性は、土台であるが。

多くのメーカーが、これらの性能を向上させ、操作性の向上へさまざまな改良をくわえてきた。シングルピース化も、挿入時の支持部による囊破損などのリスクを減らし、挿入時のストレスを減らした。プリロード化も、セッティングに伴うストレスを軽減し、眼内炎の軽減に役立っているに違いない。

そんな中で今回アバンシィシングルピースのプリロードが発売された。使ってみての印象は、なんとストレスのない挿入だろうということである。素材の安定性は、保証付きであったが、シングルピース対応や、プリロード対応が遅れていた。いま、一気に先頭集団に、そして静かに輝いている気がする。大学で様々なレンズを使うが、このレンズの印象を語ってみたい。